令和4年12月25日発行

奈良県社協ホームページ
https://www.nara-shakyo.jp/

奈良ボランティアネット
https://www.naravn.jp/

奈良県社会福祉協議会 広報紙

ふれあいネットワーク

奈良県 福祉だより

2022
NO.559

CONTENTS

P 2-4【特集】 インタビュー
この人に逢いたい! 聞きたい!話したい!
「ほっと・はーと・なら」
一般社団法人Es
『「食品ロス」解決の視点から生まれた
社会リノベーションプログラム』
～人と人が紡(つむ)がれる取り組み～
一般社団法人Es 代表理事 下田(しもだ) 英吾(えいご)さん

P 5
福祉人材ニュース
保育人材バンク
福祉のおしごと&
進学フェア

P 6-7
“こども”も“おとな”も安心できる
「居場所」の広がりをめざして
奈良こども食堂
ネットワーク
5周年のあゆみ

P 8-9
「第11回
なら小地域福祉活動
サミット2022」
～人がつながり、まちを元気に～

P 10
奈良県社会福祉協議会
賛助会員
奈良県中央善意銀行へ
ご寄付・ご寄贈
ありがとうございました。

P 11
情報
赤い羽根共同募金
令和4年度 テーマ型募金
奈良県ぴ～すぺ～す
プロジェクト

● この広報紙は、再生紙を使用しています。
● この広報紙は、共同募金の助成金を受けています。

この人に逢いたい！聞きたい！話したい！

「ほっと・はーと・なら」

一般社団法人Es
『「食品ロス」解決の視点から生まれた社会リノベーションプログラム』
食べるSDGs ～人と人が紡(つむ)がれる取り組み～

奈良に縁のある多彩な分野で活躍されている方々にスポットをあて、活動への熱い想いと「福祉（幸せ）」についてお話しをお伺いするこの特集。

今回は、「食品ロス」の課題解決を通じた地域・福祉活動の支援をされている一般社団法人Esの代表理事である下田 英吾 氏にお話をお伺いしました。

■プロフィール

大木ヘルスケアホールディングス（株）より出向にて（株）奈良ドラッグに着任。地域事業やインターネット事業責任者として事業を推進。営業部長を経て取締役に着任。コロナ禍の中、山口農園様と出会い食品ロス問題に直面する。社会課題を地域資源に変えるために一般社団法人 Es を立ち上げる。

社団法人 Es（イーエス）は、様々な社会課題と向き合い社会課題を社会リノベーションと変化させて、地域社会の中で“資源”として活用できる取り組みを実施、サスティナブルに地域の中で循環できる取り組みを行っている。

一般社団法人Es
代表理事　下田(しもだ) 英吾(えいご) 氏

人と人が離れていってしまう時代に、
人と人が紡がれる取り組みが大切だと思います。

Q 一般社団法人 Es の取組について教えてください。

A 一般社団法人 Es では、“食品ロス“の課題解決の視点から様々な地域支援を**「未来へ紡ぐプロジェクト」**として実践しています。廃棄野菜を保存食として加工した**「NARA Green」**の開発や「こども食堂」への支援、NARA Green を染料にした**「奈鹿ね子染菜(なかこせんさい)」**の地域での活用等、様々な活動を展開しています。活動を通じては、県内の農家さんや大学、就労支援事業所など様々な団体とつながりながら取り組んでいます。

Q なぜ食品ロスの課題に着目したのですか。

A 前職の関係で、「地産地消のお野菜を商品展開したい」という想いがあり、県内の農家さんにお声がけしたのが最初です。実際にお話しを伺った時に、食べることができるが、商品の基準に達していないという理由で廃棄される大量の規格外野菜を目の当たりにしました。そこで農家さんが抱える課題を認識しました。さらに、作り手の有機野菜づくりに対する想いを聞いたことで、「生産者の想いがつまった野菜、その想いを無駄にしたくない」という気持ちがわき上がり、今の取り組みにつながる“きっかけ”になったと思います。

Q 一般社団法人 Es 立ち上げのきっかけを教えてください。

A 廃棄野菜を活用したいという想いから県内の「こども食堂」に食べられる廃棄野菜を提供する取組を始めました。しかし、こども食堂へ支援する数量だけでは広い意味で食品ロスの解決には至らないと感じ、本格的に食品問題を取り組むために、2021 年夏に一般社団法人 Es を立ち上げました。法人を立ち上げてからは、廃棄される野菜を地域ブランドの資源として商品化する取り組み「未来へ紡ぐプロジェクト」を行っています。

Q 「未来へ紡ぐプロジェクト（以下、未来へ紡ぐ PJ）」について教えてください。

A 未来へ紡ぐ PJ では、今と変わらないものを大人ではなく次の、さらに次の世代に、しっかりとバトンを受け渡して、未来へつなげていくことを目的としています。新型コロナウイルス感染症拡大により、人と人が離れていってしまう時代において、“人と人が紡がれる”、“人と人が関われる” 取り組みが必要だと思い、食品ロスという切り口からネットワークづくりや商品開発など、私たち大人が子どもたちに未来を紡いでいく取り組みを行っています。

Q 廃棄野菜を活用した食べるSDGs「NARA Green」の開発について教えてください。

A NARA Green とは、様々なパートナーの協力のもと完成した廃棄野菜を活用した食べるSDGｓです。開発する中では、葉物野菜を、添加物を使わずに長期保存できるように加工することは大変難しく、失敗が多く見通しが立たない時期もありましたが、関わる全てのパートナーは、一度も諦めずに方方に聞いて回り、連携・協働しながら試行錯誤を繰り返して NARA Green が完成しました。この取り組みを振り返ると、改めて人と人は紡がれていることと、人と人とのつながりの大切さを実感することができました。

Q 「奈鹿ね子染菜（なかこせんさい）」について詳しく教えてください。

A 奈鹿ね子染菜は、NARA Green を染料用にアレンジした「食品ロスから生まれた」誰でも簡単に染められる染料です。葉物野菜が素材なので、安心安全に染めることができます。これは食品ロスを考えるうえで、食べる食品ロスではない体験型・五感で楽しみながら食品問題の解決につながる取組になると考えています。今後は、こども食堂だけでなく、こどもが携わるような施設においても「食品ロス問題」を新たなカタチとして活動を広めていきたいと考えています。

Q ご紹介いただいた取組では、どのような機関と連携・協働していますか？

A 県内の農家の方や、こども食堂などの地域活動者等、様々な団体と連携しながら活動しています。こども食堂との関係について、当初は野菜の提供という支援者として関わっていましたが、現在は、こども食堂主催のイベントや地域のイベントに招待していただくようになり、逆に応援してもらっています。このように応援してもらえることも今まで紡がれてきた関係があったからこそだと思っています。また、地域における新たな雇用創出のため、県内の就労支援事業所に野菜の仕分けやラベル貼りの作業などの地域支援拡大を目指していきます。最近では、県内の大学と奈良の食を通じた地域活性化のプロジェクト（奈良の食のプロジェクト）を進めています。学生さんにはレシピ開発を手伝ってもらい、奈良の食を通じて SDGｓを地域の中で確立していく、そういった意味で産官学をそろえた地域連携を実現しています。

Q 今後の活動の展望について教えてください。

A 「食品ロス」の視点から社会課題を解決していく中で、福祉事業への支援を今後のプロジェクトの一つに入れています。開発した商品から得た利益を活用して、県内で食品ロスの問題に目を向けてもらう学びの場を幅広く展開していきたいと考えています。

Q 県内の地域活動者へのメッセージをお願いします。

A 県内の社会課題は数多くあると思っています。それを自分達だけで解決しようとするのではなくて、様々な団体と関係を“紡ぐ”ことで新たなアイデアが生まれ、共に取り組むことでより良い地域づくりになると思います。

■ HP　https://es-2021sdgs-nara.jp/

■ Instagram　nakanekobe_sensai

SDGs

『持続可能な開発目標』（Sustainable Development Goals）の略称は、2015年9月の国連サミットで「加盟国の全会一致で採択」された“2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標”のことで、17のゴールと169のターゲットから構成されており、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。（※外務省 HP より）

福祉人材ニュース

福祉のお仕事探しは奈良県福祉人材センターへあなたが活躍できる職場がきっとあります！
福祉人材センターは、奈良県社会福祉協議会が、厚生労働大臣の許可を得て運営する無料職業紹介所です。お仕事探しのための様々な支援を行っています。

子育ての仕事に役立つ　奈良県保育人材バンク主催！　0744-29-0160（直通）

“かんたん遊び“ワークショップ

パネルシアター実施！

日頃役に立つ手遊びや、おもちゃ作りを通じて子育ての仕事に活かしてみませんか？

奈良県保育人材バンクでは、無料で子育ての仕事を紹介しています。保育士として働きたいがブランクがある方の復職や、未経験の方の不安を解消し、保育分野で働きたい方を支援するワークショップを開催します。是非、ご参加ください。

● 定員６名　要予約　無料

令和５年２月２日（木）13時30分～14時30分

奈良県社会福祉総合センター４階教養文化室

詳しくは、申し込みフォーム・メール・電話
https://onl.bz/VGT8SuF

履歴書不要。未経験・無資格・復職歓迎

福祉のおしごと&進学フェア in奈良2023　開催決定！！！

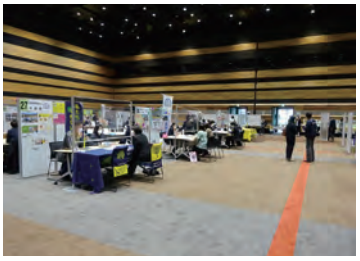
令和５年３月12日（日）

参加費無料・服装自由・入退場自由

奈良県コンベンションセンター１階（コンベンションホール）

魅力ワクワク・ブースde面談＆各種相談コーナーあり。

随時ホームページにて情報更新中！
https://nara-shakyo.jp



奈良県福祉人材センターでは、利用者の立場に立った質の高いサービスが提供されるよう、福祉職員を対象とした各種の研修を実施しています。
詳しくは、本会ホームページ（右QRコード）をご覧いただくか、下記までお問い合わせください。

社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会　福祉人材センター
〒634-0061 奈良県橿原市大久保町320-11　TEL：0744-29-0160 ／ FAX：0744-29-6114
ホームページURL　https://nara-shakyo.jp/pages/4/

5年を振り返って

県内で広がっています！こども食堂の輪!!

奈良こども食堂ネットワーク

2017年に「奈良こども食堂ネットワーク」が誕生しました。以来、この5年の間に、社会・地域の変化や予想だにしなかった新型コロナウイルス感染症の爆発的な流行など、こども食堂団体のありようにも大きく変化・影響がありました。ネットワーク加入団体の皆様とともに、創意工夫しながら歩んできました。本号では、その歩みを振り返ります。

奈良こども食堂ネットワーク設立式
（2017年8月26日）

奈良こども食堂ネットワーク
（公式ホームページ）

2015
- 県内に「こども食堂」が誕生

2016
- 情報交換会が始まる

2017
- 「ネットワーク設立準備会」が発足（2017.3）
- 「奈良こども食堂ネットワーク」設立（2017.8）
- こども食堂ネットワーク設立総会（2017.11）

2018
- 情報交換会～ワールドカフェで語り合おう～（2018.3）
- ネットワーク活動の充実
- パンフレットの作成
- キャンペーン資材の作成①
- 展示パネル
- 19団体の会員からスタート

奈良こども食堂ネットワーク横断幕

こども食堂パンフレット

こども食堂ネットワークのこれまでを振り返って（共同事務局：奈良県生活協同組合連合会 新田和夫 氏）

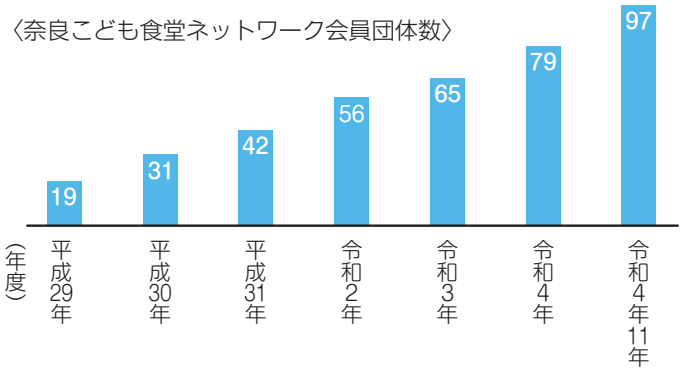
それは、Facebookから始まりました。こども食堂を「やりたい」の投稿を見て、ならコープと生協連で2015年12月に県内で初めてできた”いかるがこども食堂”の取り組みをお聞きしました。この懇談をきっかけにこども食堂運営者や関心のある方に呼びかけて翌年5月に「こども食堂交流会」を開催。想定以上の参加者となり、関心が高いことに驚きました。参加者からは、奈良県内のネットワークの要望も出されました。

そして、奈良県社協にも加わっていただき、こども食堂の方々を中心に4回の準備会で協議を重ね、2017年8月「なら小地域福祉活動サミット」の会場で「奈良こども食堂ネットワーク」が設立しました。「温かい居場所の広がり」をめざしてネットワークがスタートして5年。県内のこども食堂の広がりに、”支え合いつながりあう”ことが多くの地域で求められていることを実感しています。そこには、こども食堂を運営されている方々の子どもを真ん中においた地域づくりへの熱意と大変な努力があることも忘れてはならないと思っています。

□ 共同事務局　奈良県社会福祉協議会・奈良県生活協同組合連合会
□ ホームページ　https://kodomonara.com/
□ 問合せ先　奈良県社会福祉協議会 地域福祉課
電話：0744-29-0100

奈良こども食堂ネットワーク

〈奈良こども食堂ネットワーク会員団体数〉



★ **（公財）森田記念福祉財団協賛により「こどもの未来応援プロジェクト」を展開**
〈会員支援活動〉
（✓会員団体向け助成金（活動開始・活動継続）
✓会員研修・交流会の開催）
〈啓発活動〉
（✓チラシ・横断幕等キャンペーン資材の作成
✓ホームページの充実（リニューアル））

会員総会交流会（2021年12月13日）

2019
- 会員交流会～活動のあれこれを語り合おう～（2019.7）
- ・キャンペーン資材の作成②（のぼり旗、横断幕）
- ・公式ホームページ開設2019.4～
- ・（公財）森田記念福祉財団協賛「こどもの未来応援プロジェクト」始動（★）

2020
- 会員学習会（2020.3）※新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止
- 会員交流会～コロナ禍のいまとこれからを語り合おう～（2020.10）
- ・キャンペーン資材の作成③（卓上ミニのぼり旗）
- ・会員数が50団体を超える
- ・奈良こども食堂サポート事業（県委託事業）が開始

2021
- 会員総会・交流会～コロナと共に、これからのこども食堂～（2021.12）
- ・PRブース出展（中央卸売市場／イオンモール大和郡山）
- ・キャンペーン資材の作成④

奈良こども食堂サポート事業チラシ

2022
- 会員交流会～コロナ禍からの活動と変化するこども食堂～（2022.7）

こども食堂立ち上げガイド＆ワークブック

こども食堂ネットワークのこれからを考えて（共同事務局：奈良県社会福祉協議会　岡本晴子）

「こどもを真ん中に」を合い言葉に広がってきたこども食堂、今あらためて、その魅力や価値が再確認されています。

こどもを取り巻く状況が厳しさを増すなか、運営者さんは「つながりの貧困が深刻」と言います。日々の暮らしでは、時に厳しく困難な局面が生じますが、「助けて」と言える人が家族以外にもいることが、大きな支えとなります。あたたかなご飯を通じて育まれた顔の見える関係は、こどもを柔らかく包み、これからの地域づくりの希望となると感じます。

また、応援する人たちの幅広さも、こども食堂の魅力です。近隣の方、農家の方、民間企業や事業所、福祉とは接点の少なかった方が協力を申し出て、活動を支えてくれています。未来あるこどもたちを皆で支える、支えることで自分たちもつながる、そんな好循環が生まれています。

「つながることで、運営者が元気になり、こどもを支えていこう！」ネットワーク設立に込められた思いは、原点でもあり、これからを照らす言葉でもあると思っています。

人がつながり、まちを元気に！

第11回なら小地域福祉活動サミット2022

令和4年8月27日(土)

現地会場およびオンライン併用で開催し、300名を超える参加者とともに多様性を認め合う地域のつながりのあり方を考えました。

オンライン併用

基調講演

ウスビ　サコさん
京都精華大学
全学研究機構情報館長
（前学長）

『人と人とがつながる地域の未来 ～空間で育むコミュニティ～』

講演冒頭､｢みなさんにとってのコミュニティはどこですか？｣と語りかけ､｢場所と社会に加え､活動･アクティビティ･一緒に何かをすることと考えている、地縁的・血縁的な共同体と利益目標的な共同体であり、その地域に生まれ育ったかどうかではない」と投げかけられました。

コミュニティを形作るうえで重要な「空間＋社会」が成り立つ条件は、「人と場所と行動」であり、共存・共生するなかで地域が成り立つ。そのうえで希望やルール、継続性が付いてくる。道空間（生活の場）の研究で、共有している場をどう調整するか、お互いの関係確認をすること、コミュニティは適度な迷惑をかけあいながら調整している。と、調査研究の事例を報告してもらいました。

また、グローバル化する社会のなかで重要になる多様性は、受け入れる・認めることを認識することが大事になる。日本はハイコンテクスト（高文脈社会）であり、全てを言わなくても理解を求める文化である。と自身の経験をもとにお話をしてもらいました。

新型コロナウイルス感染症の流行で不便を味わい、地域コミュニティが見えてきた。地域の良さ、身近な人が見えてきたのではないでしょうか。お互いを尊重しあって地域をつくっていく際、ダイアローグ（対話・語り合う）が大事になる。地域に参画する時に自分の言葉をもち、「問い」を立てるチカラをもつことで、他人との距離が短くなる。地域づくりは誰かのものではなく、みんなのものでもあり、それぞれが当事者であり、私たち自身がつくっていくものと思っている。と締めくくられました。短い時間の中で、これからの地域活動を考えるヒントをいただきました。

第1分科会

『参加者だけでない、活動者も楽しんでいればこそ！ ～地域に密着した活動の魅力～』

■実践報告　堂本　太道さん・坂口　幹彦さん
（桜井市／有償ボランティア『いろりの和』あさくら）
久岡　政司さん・髙橋　周代さん（葛城市／東和苑ささえ愛会）
瀬川　優美さん（平群町／ネットワークひまわり）
多田　千家子さん・山田　みどりさん（上牧町／しもまきネット）
■コーディネーター　奥田　佑子さん（日本福祉大学　研究員）

サロン活動を中心に地域住民とどうつながっているのか、地域の困りごとの声を地域で共有しどのようにサポートしているのか、４者４様の活動内容を報告いただきました。活動が楽しいからこそ、次の活動展開につながること、自分たちのマチだから自分たちで住みよくする、といった地域活動に取り組まれている思いを共有しました。

第2分科会

『深堀りすると見えてくる、多様な地域活動の魅力を知る ～地域の暮らしを豊かにする取組～』

■実践報告　室田　今朝幸さん・藤本　賢司さん（大和郡山市／筒井順慶顕彰会）
花香　知寿さん（橿原市／花香山西福寺）
福中　眞美さん（生駒市／ひかりが丘自治会）
■コーディネーター　川本　健太郎さん（神戸学院大学　准教授）

一見すると福祉っぽくない、でもよくよく聞いてみると「つながりづくり」につながっている…そのような多様な地域活動を「地域活動を長く継続できているコツ」「活動者自身も楽しみながら周りをまきこむ」等の様々な視点から活動実践を報告いただきました。年齢や性別関係なく、地域の中に集まることができるコミュニティがあることで、様々な活動や関係性が派生していくことを共有できました。

第3分科会

『中山間は課題解決の先進地？ ～参加者も登壇者も一緒に考える、地域福祉活動の可能性～』

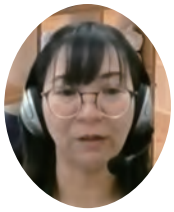
■実践報告　上田　広志さん（下市町／ならコープ下市ステーション）
宇野　三幸さん（下市町／しもいちこども食堂「あいあい」）
山谷　悟子さん（川上村／高原健康作りの会）
川口　晴美さん（東吉野村／ぬくもり協議体　いちたつマルシェ）
■コーディネーター　金田　喜弘さん（佛教大学　講師）

第３分科会は今回唯一の会場参加に限定した分科会として、現地参加ならではの登壇者と参加者の双方向性の意見交換を行いました。「そのマチらしさをどう活かしていくか」「人のあたたかさや、地域ならではのぬくもりを活かす」「声を拾い上げる、気にかけあえる関係づくり」など、チカラ合わせの実践を報告していただき、地域づくりの可能性を実感する分科会となりました。

第4分科会

『拠点のチカラは無限大？活動者によって表情の変わる安心の空間づくり ～専門職向け分科会～』

■実践報告　「ねどこ」関係団体（奈良市／ブレイク、まんまの会、ふぁ～ちぇ、ハートハース、COCO＋、奈良市社会福祉協議会）
■コーディネーター　岡本　晴子（奈良県社会福祉協議会　地域福祉課長）



ひきこもり等の当事者のための居場所づくりをめざす専門職向け分科会として、多様な属性の団体・仲間が運営する居場所「ねどこ」の実践を紐解き、心地のよさのヒミツに迫りました。当事者の声をもとに「少人数で安心」「雑談からの相談」「情報が届く」の３つの機能を大切に、組織を越えて夢を語り合いながら６つの団体がそれぞれの特性を活かした運営。「入り口がたくさん用意されている”ねどこ“」から、共生の地域づくりに向けたヒントを得ました。

奈良県中央善意銀行寄付

ご寄付・ご寄贈　ありがとうございました。

地域福祉・ボランティア活動振興のため、奈良県中央善意銀行へご寄付をいただきました。
（令和4年8月25日～令和4年11月11日受付順、敬称略）

金銭預託

- (株)吉田稔商店
- 公益財団法人森田記念福祉財団
- 奈良県自動車販売店協会

物品預託

- 奈良県理容生活衛生同業組合
- 奈良県遊技業協同組合
- 関西遊技機商業協同組合

奈良県自動車販売店協会寄付金贈呈式

奈良県遊技業協同組合物品贈呈式

奈良県理容生活衛生同業組合物品贈呈式

奈良県中央善意銀行の寄付金は、以下の活動に使わせていただいています。

- 地域福祉活動への助成
- 奈良子ども食堂ネットワーク
- 県内の交通遺児への取り組み
- フードレスキュー事業　等

奈良県中央善意銀行寄付に関するお問い合わせ・受付窓口

奈良県社会福祉協議会　総合ボランティアセンター
福祉教育・ボランティア活動係
（奈良県社会福祉総合センター内）
〒634-0061　橿原市大久保町320-11
TEL：0744-29-0155
FAX：0744-26-0234

令和4年度　奈良県社会福祉協議会 賛助会員

多くの方々から地域福祉活動推進のため賛助会費を戴いております。
ご支援・ご協力ありがとうございます。

令和4年9月1日～11月11日（敬称略・五十音順）

- 株式会社南都銀行神宮前支店
- 株式会社ニトリ法人＆リフォーム事業部　堺

入会方法について

1.「賛助会員入会申込書」を提出ください。
　↓　申込書は、本会ホームページからダウンロードできます。
2.本会より発行する請求書にもとづき、会費をお支払いください。
　＜会費額＞
　団体会員：一団体あたり一口 10,000 円（何口でも）
　個人会員：　　一口　5,000 円（何口でも）

会員特典について

○本会機関紙「奈良県福祉だより」の送付（年４回）
○本会が開催する福祉大会等の催しのご案内（随時）
○本会広報紙、ホームページ等を通じた顕彰（希望者のみ）

お問合せ先

総務企画課　TEL：0744-29-0100　FAX：0744-29-0101
https://nara-shakyo.jp

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金 情報

令和４年度 テーマ型募金 奈良県ぴ～すぺ～すプロジェクト

実施期間：2023年1月1日～3月31日

「奈良県ぴ～すぺ～すプロジェクト」は、地域課題を解決するために活動している団体と、奈良県共同募金会との協働により、誰もが住み慣れた地域で安全・安心に暮らすことができる地域福祉コミュニティーの実現をめざすプロジェクトです。あなたの応援したい活動を選んで、寄付ができます。
ぴ～すぺ～すは【peace(安心)+space(空間)】を組み合わせた造語で、天理大学の学生によるネーミングです。

寄付の方法・手順

ゆうちょ銀行窓口でお振込いただけます（振込手数料無料）

❶ 応援したい団体を選ぶ ▶ ❷ 郵便払込取扱票を記入する ▶ ❸ ゆうちょ銀行窓口で手続きする

【口座記号番号】00980-6-300　【 加入者名 】社会福祉法人奈良県共同募金会

払込取扱票通信欄に、応援したい団体名もしくは、AまたはBのアルファベットをご記入ください。
個人や法人が共同募金会へ寄付した場合の税制優遇制度があります。
個人の場合は、所得税及び住民税の控除の対象となります。法人の場合は、全額損金算入できます。

次の団体の中から、応援したい活動を選んで、ご寄付をお願いします

A 勉強がしたい！でも有料塾には通えない…。そんな子どもたちを支える無料塾を実施。

家庭の経済力によって有料学習塾に通うことが困難な子どもたちのため、毎週2回、大和郡山教室と奈良教室にて学習しています。
子どもたちからは「わからないところは安心して聞けた」「塾に行きたいってなかなか言えなかったけど、すみれ塾なら言えた」などの声があります。
ボランティアの大学生・市民が学習講師となり、子どもたちのがんばりを支えています。
塾の継続的な運営にご支援をお願いします。

寄付はこちら▶
特定非営利活動法人
市民ひろばなら小草
（奈良市）

B 暖かいお気持ちの架け橋の場として、こども食堂を実施

何度も襲ってくるコロナの波により、会食を避けざるをえず、お弁当配布という形での活動を続けています。
本来は、手作りの料理を、皆んなで一緒に食べて、会話やゲームを楽しみホッとできる食堂。
それでも、月一回、お弁当やご支援の品々をお渡しする場でお話しをすることで、子ども達の成長ぶりに驚き、参加ご家庭とのつながりを深めています。
食堂活動を続けることで、皆様のお気持ちをお届けしていきます。
こども食堂が継続できるよう、ご支援をお願いします。

寄付はこちら▶
こども食堂いかるが
（斑鳩町）

★「募金百貨店プロジェクト」に新たに１社、ご登録いただきました。

奈良県共同募金会が実施する「募金百貨店プロジェクト」にSCOPO株式会社様が、県内7番目の登録企業として参加され、令和4年10月14日に覚書締結式を行いました。

【右】SCOPO 株式会社　代表取締役 早崎　広司　様
〈右脳式ライフプランニング®〉〈物語仕事塾®〉相談１件あたり 500 円を寄付
奈良県生駒市山崎町 7-22-101　TEL:0743-76-0043　http://scopo-ikigai.co.jp/
【左】(福) 奈良県共同募金会　会長　吉川　正利

【同プロジェクトへの参加企業を募集しています】

「募金百貨店プロジェクト」とは（多様な寄付つき商品・企画が併存するプロジェクト全体を百貨店のイメージと結びつけた名称です）
地域社会に貢献する企業・団体等に登録いただき、“寄付つき商品・企画”を販売して、売上の一部を赤い羽根共同募金に寄付していただくプロジェクトです。

社会福祉法人
奈良県共同募金会
〒634-0061 橿原市大久保町 320 番 11　奈良県社会福祉総合センター 4F
TEL：0744-29-0173　FAX：0744-29-0174
E - mail：info@nara-akaihane.com　http://www.nara-akaihane.com

令和４年度

https://www.fukushihoken.co.jp
ふくしの保険　検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険

保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

保険金の種類 ＼ プラン			基本プラン	天災・地震補償プラン	【新設】特定感染症重点プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円（限度額）		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円		
		外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額		4,000円		
	特定感染症		補償開始日から10日以内は補償対象外(*)		初日から補償
	地震・噴火・津波による死傷		×	○	○
賠償責任の補償	賠償責任保険金（対人・対物共通）		5億円（限度額）		
年間保険料			350円	500円	550円

＊4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

商品パンフレットは
コチラ

（ふくしの保険ホームページ）

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。

例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

送迎サービス補償（傷害保険）

福祉サービス総合補償（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者　社会福祉法人 **全国社会福祉協議会**

〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店　株式会社 **福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667
受付時間：平日の 9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）

〈SJ21-10723 より抜粋して作成〉

■ 発行所／社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会　〒634-0061 奈良県橿原市大久保町 320-11　TEL.0744-29-0100(代)　FAX.0744-29-0101
■ 編集者／事務局長　森田 英之　■ 発行／年4回　■ 定価／1部10円(会員の購読料は会費に含む)　■ 印刷所／やまとびと株式会社